

自 己 評 価					学校関係者評価	
評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	今後の方向（改善計画等）
① 組織的な学校運営	〈組織的な学校運営〉 主任等を中心にして各分掌の機能化を図り、組織体として絶えずPDCAを意識した学校運営を心がける。	【成果指標】 主任等のリーダーシップの下で、各分掌の提案・実施が適切で学校が組織的・機能的に運営されている。	学校が組織的・機能的に運営されたと感じている教職員の割合が A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満	●職員会議の効率化を図るために内容の焦点化、各分掌での事前吟味の徹底化を図った。 ●教職員アンケートの結果は88%だった。（昨年同期は65%）	A	*学校関係者評価委員会は9月に開催予定。 ●職員会議の効率化は進んだが、職朝での連絡事が多く学年の打ち合わせ時間が不足しがち。職朝時間帯の活用の仕方が課題。PCの教員ページをもっと有効に使う方法を検討。 ●学年会議が定例化していないので、放課後になり長時間化する傾向がある。週に1回給食時に学年会が開けるように給食指導体制の一部見直しを検討する。 ●学年会の充実と効率化を図る。
	〈学校安全〉 非常時に安全かつ速やかに避難できるよう、定期的な防災訓練を実施し、適切な対処の仕方を身につける。	【努力指標】 定期的かつ計画的に防災訓練を実施し、適切な対処・連絡体制がとれるようにする。	計画的に防災訓練が実施され、適切な対処・連絡体制がとれている教職員の割合が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	●6月9日に授業中の火災を想定した防災訓練を実施した。 ●教職員アンケートによると安全な学校作りを心がけていると答えた教職員は82%である。 ●保護者アンケートでは、学校側の安全指導への信頼度は87%だった。	C	●防災訓練は緊急性・必要性の面から1回目は4月に実施する方向で。定期的かつ計画的に実施されることが求められるので、年間計画に先に組み込んでおく。 ●改修工事のため防災関係機器が使えなかったため、2学期以降に防災設備の周知徹底を含めた教職員の講習会を設定。 ●津波に対する避難マニュアルの確認や訓練も入れていく。2学期中に本校屋上を利用した小中合同の津波対応防災訓練を実施する方向で、現在検討中。
② 確かな学力の育成	〈小中連携学力向上プロジェクト〉 校区の特性や教育環境を生かし、小中が連携して学びを支える基盤づくりと、学力向上に向けての研究構想を推進する。	【努力指標】 推進のためのプロジェクトチームが有効に動くことで、安宅地区の子どもたちの意識や学力向上への足がかりを作る。	小中連携推進会議が設置され、9か年の義務教育の中で、子どもたちに身につけさせたい力の共通認識と実践が進んでいると感じている教職員の割合が A：85%以上 B：75%以上 C：65%以上 D：65%未満	●連携推進の骨格づくりを年度当初管理職間で実施（4月） ●学力達成度調査結果の報告・検討会を実施。（5月） ●小中児童生徒会役員による合同挨拶運動の実施（6月）。 ●合同研修会を持ち、分科会で情報交換や今後の見通しを話し合った。（8月） ●教職員アンケートの結果は71%	C	●推進のためのプロジェクトチームを立ち上げた。1学期は双方の学校が共に校舎工事中のため、連携を図る機会が少なかったが、8月9日の合同研修会の分科会（生徒指導・学習指導・特別支援教育・学校研究）で2学期以降の方向性を話し合うことができた。 ●今後は、小中の課題解決に向けて、生活規律や学力向上への指導の連続性を常に共通認識としてもち、後半の計画を推進する。 ●双方向からの出前授業・児童生徒の行事交流・授業公開・学力調査のデータ分析の共有などを予定している。
	〈家庭学習の習慣化と内容の充実〉 学年に応じた家庭学習の習慣化と内容の充実が図られるための方策が取られている。	【成果指標】 学年目標とされている時間の家庭学習に取り組むことができ、課題提出や自主学習の成果を自覚できる。	家庭学習の習慣化と内容の充実を自覚できている生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	●生徒アンケートでは76%だが、教員のアンケートでは33%であり内容の充実が十分とは言えない。 ●平日の家庭学習時間1時間以上が51%（生徒回答）、46%（保護者回答）とまだ時間不足。 ●方策のひとつとして、中間と期末テストの10日前から「家庭学習強化期間」を設けて学年目標時間の達成を意識させた。達成率はまだ低い。 ●上記の理由より、判定はBとする。	B	●平日の学年目標時間を1年90分、2年120分、3年150分と設定しているが、現実的にはかなり厳しい。 ●強化期間中の目標達成率は55%、テスト3日前はさらに30～60分の上乗せを設定。達成率は64%。 ●家庭学習時間の伸びや内容の充実については、教職員からみた生徒の様子はいま一つである。アンケート結果を家庭にも提供することで、帰宅後から就寝までの時間を家庭でどのように過ごしているかについて、家庭の理解と協力を得てさらに連携して取り組んでいきたい。 ●学年懇談会の9月開催を計画中。
	〈学習意欲を高める授業づくり〉 生徒が「わかった、できた」ことを実感できる授業づくりを心がけ、学習意欲を喚起する課題設定や学習展開を工夫する。	【満足度指標】 学習のねらいやゴールが明確で、よくわかったこと、できるようになったことを実感できる授業になっている。	学習のねらいが明確で、授業内容もよくわかり、できるようになったことが実感できる授業が多くなったと感じている生徒の割合が A：75%以上 B：65%以上 C：55%以上 D：55%未満	●教科ごとに授業づくり研究プランを立てて指導の重点を意識した。 ●教科でばらつきはあるが、「授業がわかりやすく内容がよく理解できる。」と答えた生徒は、全教科平均で85%。 ●教職員アンケートではこのような授業づくりを意識してきたと答えた教職員が79%。	A	●生徒アンケートによると、「授業に真剣に取り組んでいる。」と答えた生徒がどの教科も80%を越えている。ただ、「授業はわかりやすく内容がよく理解できる。」に対しては、教科や学年・学級によってばらつきがある。この結果を各授業担当者は真摯に受けとめ、その分析と授業改善に向けてのプランの見直しも必要。 ●公開授業（授業参観10/6）や計画訪問（11/24）、授業研究会（2/25）などを通して、より実践的な授業力の向上を図っていく。

	<p>〈言語活動の充実〉 各教科やその他の教育活動で言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。</p>	<p>【成果指標】 生徒が、必要な場面で自分の思いや考えたことの結果をきちんと表現できる力が付いてきたことを実感できる。</p>	<p>必要な場面で、自分の思いや考えたことの結果がきちんと表現できる力が付いてきたことを実感できる生徒の割合が</p> <p>A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満</p>	<p>●授業では意識して表現活動を取り入れ、掲示で広く公開することを意識した。 ●授業以外でも「自己表現」の場を意識して取り入れた。 (全校集会に表現活動を導入、委員会活動の中での発言、学年・学校行事の際に伝える場面を増やす等) ●生徒アンケートでは70%である。 (昨年同期は57%) ●教職員アンケートは50% (昨年同期は24%)</p>	A	<p>●本校の大きな課題であった「自分の思いや考えたことの結果をきちんと表現できるようになってきたか。」の設問に対しては、できるようになったと感じる生徒の割合が昨年度よりアップし、2年前からの言語活動を意識した授業づくりが活かされてきている ●小松市学力調査の結果は、国語・数学とも活用力の問題が、市平均を上回ったが、まだしっかり身につけているとは言えない。発表は答えだけではなく根拠も述べること、個人の思考の変遷が見られるようなノートのとり方、記述問題を多く取り入れたテスト問題作成等、今後も言語活動の充実に努めていく。 ●基礎の定着に向けては頻度と内容を工夫し継続を図る。</p>
	<p>〈校内研修〉 積極的な授業研究や公開授業を通して指導技術を磨き、教師自身が学び合い学習や活用力を発揮できる校内研修会を実践する。</p>	<p>【満足度指標】 ひとり2回以上の研究授業(公開授業)を設定し、校内研修会の活性化を図り、教職員の参画意識と指導技術の向上を図る。</p>	<p>校内研修会で、授業づくりの研究や指導案検討、学習会等を実践したことが、授業改善・指導力の向上を図るために有効であったと感じている教職員の割合が</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>●校内研修会を3回実施。事前に研究推進委員会で、原案の検討、確認を行っている。 ●6/27、小学校の先生を招いての公開授業(3教科)を実施。その後、ワークショップ型の研修会を試みた。 ●8/9 小中合同研修会(講師：矢原珠美子先生)出席者42名。 ●アンケートによると、校内研修会の有効性を感じていると答えた教職員は83%である。</p>	B	<p>●夏期休業中の市教委開催研修で2講座を校内研修として指定し参加した。次年度からの完全実施に向けて教員各自の意識改革、自己研鑽できる研修の機会を今後も設定していく。来年度の発表に備えて、2学期に県外の先進校視察を入れる予定。 ●6月に実施したワークショップ型の校内研修など、全員が積極的に参画する内容を研究推進委員会からこれからも提案していく。 ●安宅小の授業公開にもできるだけ参加し、小学校の先生方の指導技術や子どもとの関わり方も参考にしていく。</p>
③ 豊かな心の育成	<p>〈集団づくり〉 学級・学年を基盤に、それぞれが自己の役割や責任を果たし、互いに認め合い高め合える集団づくりに取り組む。</p>	<p>【成果指標】 学年に応じた自己の役割や責任を果たし、互いに認め合い高め合える集団の一員としての行動ができている。</p>	<p>学年に応じた自覚を持ち、自分の役割や責任を果たし、集団の一員としての行動ができていると感じている生徒の割合が</p> <p>A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>●生徒指導部から出された「授業の決まり5か条」「生活の決まり5か条」を全校挙げて取り組んできた。 ●QU実施(5月)。 ●生徒アンケートによると1年88%、2年93%、3年87%。 2年は金沢フィールドワークや職場体験など、個人の役割や責任が明確になる行事をうまく生かした。 ●教職員アンケートでは81%。</p>	B	<p>●安中の決まり10か条は、昨年度の小中合同研修会で確認された9か年の指導の連続性を意識して今年度設定した。 ●学力向上の一番の基盤になる部分と捉えて、引き続き学校全体、教職員一丸となって取り組んでいく。 ●学年会、生徒指導部がうまく機能している。2学期以降も教職員が「共通して取り組む5項目」を意識していく。 ●QUは11月に2回目を実施予定。結果分析はいつも担当が行い、全教職員で共通理解を図る場を持っている。経年での追跡もしている。</p>
	<p>〈道徳教育〉 道徳の時間の内容を工夫・充実し、学校の教育活動全体を通して道徳的価値観・自己の生き方について自覚を深め、道徳的实践力を育成する。</p>	<p>【成果指標】 計画的に実践を重ね、積極的な授業研究に努めることで、生徒の道徳的心情の高まりを促す。</p>	<p>道徳の時間やその他の場面で、人間関係作りや自己の生き方などについて深く考えるようになった生徒の割合が</p> <p>A：75%以上 B：70%以上 C：65%以上 D：65%未満</p>	<p>●学年の中で打ち合わせする時間を取り、資料研究や指導工夫を共有してきた。 ●各学年とも道徳の授業時数確保は充分にできている。 ●人間関係作りや自分の生き方について考えるようになってきたと答えた生徒の割合は77%。</p>	A	<p>●道徳の時間の確保は充分であるが、心に響く内容の実践がなされていたかどうかは課題として残る。資料を多面的に用いて、読み物資料、ビデオ、絵画、音楽など効果的に取り入れたり、体験を生かすなど方法を多彩に試みたり、日常との関連を図ったりと、その内容を工夫・充実させることで自分自身の道徳的实践力に繋がるよう努める。 ●外部人材の活用機会があまりなく、もっと視野を広げた中での資料活用、人材活用も考慮していく。地域にもっと目を向ける。</p>
	<p>〈主体性を育む生徒会活動〉 生徒の主体性を育む学校行事や生徒会活動を企画し、参加への意欲向上や役割・責任を果たすこと、協力し合い高め合うことができる運営を目指す。</p>	<p>【満足度指標】 学校行事や生徒会活動に関心を持ち、積極的に参加・協力することで達成感や充実感が得られる。</p>	<p>学校行事や生徒会活動に関心を持ち、積極的に参加・協力することで達成感や充実感が得られたと感じている生徒の割合が</p> <p>A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：70%未満</p>	<p>●全校集会の形態の工夫や資源回収への生徒の積極的な関わりに取り組んだ。様々な面からのリーダーの育成。 ●生徒へのアンケートによると73%の生徒が、達成感や充実感が得られたと感じている。この割合は各学年ほぼ同じである。 (昨年同期は70%)</p>	C	<p>●生徒会活動や全校集会で生徒が活躍できる場を設けるよう努めてきたが、生徒の達成感や充実感の割合がなかなか上がらない。 ●2学期は運動会や文化祭などの学校行事を中心に一人一人の生徒が必ず活躍する場を設け、充実感や達成感が得られるようにしたい。これはあらゆる場面で、全教師が意識して取り組むことと、主体性を引き出す仕掛けを教師がいかに工夫できるかにかかってくる。2学期を充実期と捉えて総力を挙げて取り組みたい。</p>

④ 健やかな体の育成	<p>〈健康教育〉 教育の全分野で生徒の健康管理と指導にあたり、生徒自らが健康問題に気づき心身の健康に対する自己管理能力の向上に努める。</p>	<p>【成果指標】 生徒が自分の健康に関心を持ち、家庭生活においてテレビやゲーム等で使用する時間を決め規則正しい生活を送ることができる。</p>	<p>普段（月～金曜日）、1日あたりテレビやビデオ、テレビゲーム、漫画などに費やす時間が2時間未満の生徒の割合が</p> <p>A：60%以上 B：50%以上 C：40%以上 D：40%未満</p>	<p>●自己の心身の健康管理や基本的な生活習慣の定着については、検診の機会や保健だより等を通じて啓発してきた。</p> <p>●7月の生徒アンケートでは51%、一方保護者は67%と回答している。</p>	B	<p>●ゲーム等に費やす時間が学年を問わず非常に多いのが気かりである。夜中までオンラインゲームをする生徒もいる中、夜更かしが成長や学習意欲に与える影響について保健だよりでの連載・来室者への個別指導を今後も続ける。</p> <p>●2学期は集団への保健指導を計画している。家庭との情報の共有化も図る必要がある。</p>
	<p>〈部活動の活性化〉 集団活動を通して、心身の発達を促進し、個性の伸長や社会性を高めるなどの人間育成をめざす。</p>	<p>【満足度指標】 所属する部活動での活動を通して、規律や礼儀などを含めた自己の心身の成長を自覚することができる。</p>	<p>部活動での活動を通して、規律や礼儀などを含めた心身の成長を感じている生徒の割合が</p> <p>A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満</p>	<p>●生徒アンケートでは88%、保護者のアンケートでは89%の満足度であった。</p> <p>●部活動の開始や終了時間、普段の挨拶や片づけなど、各部ごとに指導の一貫性が見られ、外部評価も上昇。</p>	B	<p>●部活動での規律や礼儀の浸透はかなり図られてきた。これを基盤に次は競技力の向上に焦点を当てたい。</p> <p>●2学期以降には、外部からの専門講師の招聘による技術トレーニングや本校の部活動関係者以外にも小学校の少年スポーツや地域クラブの子どもや保護者も巻き込んだ栄養セミナーの開催も計画している。</p>
⑤ 家庭・地域との連携	<p>〈家庭・地域からの学びの支援〉 学校と家庭・地域が連携して、子どもの学びを支援する取り組みを積極的に推進する。</p>	<p>【成果指標】 子どもの生活・学習状況を理解し、家庭や地域でできる学びの支援活動が活性化している。</p>	<p>家庭や地域でできる子どもへの学びの支援活動が活性化していると感じている保護者が</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>●7/25～28の4日間、サマースクールを開催した（1年）。地域から学習支援ボランティアを要請し、2名が参加。会場は安宅会館を利用。</p> <p>●7/31 資源回収を実施。校区全地域からの協力が得られた。</p> <p>●保護者アンケートによると86%が子どもの友人関係や学校の様子を理解しており、94%が学校の方針や取組を理解していると回答している。</p>	A	<p>●保護者の学校や学年の方針への理解や協力体制がかなり進んできた。理解が得られるような情報公開や対応も心がけて来た。</p> <p>●課題は家庭での時間の使い方、生活習慣・学習習慣の定着の程度である。平日の家庭学習時間やTV・ビデオ・ゲーム・漫画等に費やす時間の調査結果の公表（生徒・保護者共に取っている）をしながら、生活時間の使い方を親子で話し合える環境づくりを手助けしていくことが必要。</p> <p>●地域からも学校や子どもたちへの支援が大きい。この力を学校の活性化につなげたい。</p>
	<p>〈人間形成の基盤としての家庭教育〉 家庭教育を人間形成の基盤と捉え、連携を図りながら規範意識の向上・基本的生活習慣の確立を共に目指す。</p>	<p>【満足度指標】 家庭内でのコミュニケーションを促進することで、子どもの規範意識や生活習慣の改善・向上を図ることができる。</p>	<p>子どもの規範意識や基本的生活習慣の改善や向上を図ることができたと感じている保護者の割合が</p> <p>A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満</p>	<p>●保護者アンケートによると我が子は基本的な挨拶はできている82%（77%）、社会のルールを守っている89%（88%）、時と場に応じた言葉遣いや行動ができる83%（77%）と回答している。（ ）の数値は昨年同期</p> <p>●毎月23日を家庭読書の日とし、貸し出しファミリー増しや家庭版図書館便りも併せて発行している。</p>	A	<p>●子どもの規範意識や基本的生活習慣の改善向上について、保護者が我が子に対する評価は高いが、教職員アンケートでは全体としての生徒像で答えるためどうしても低くなりがちである。気かりな面は学校全体の課題として常に取り組むようにしていく</p> <p>●マイナス面ばかりでなく、生徒が良くなっている面や努力が認められる点について、多方面から生徒や保護者に知らせていくようにしたい。</p>
	<p>〈信頼される学校づくり〉 積極的かつ有効な情報公開に努め、信頼される学校づくりを目指す。</p>	<p>【努力指標】 学校の様々な活動を広く公開するために、ホームページの更新を積極的に行う。</p>	<p>ホームページの更新頻度が</p> <p>A：週に1回以上 B：月に2回以上 C：月に1回以上 D：学期に1回程度</p>	<p>●月の行事予定や、年度初めに更新するものについては概ねできた。</p> <p>●4月より安中安心メールの導入を始めた。HPだけではなく不審者情報、会合の案内、必要な情報などが適宜流せるようになった。</p> <p>●保護者アンケートによると、学校の情報公開に対する満足度は82%である。特に、3年生の保護者の満足度92%。進路に関する情報を学年メールでも送信していることへの信頼感と安堵であると思われる。</p>	C	<p>●ホームページの更新については、日々の教育活動をトピックとして週単位で発信できるように校内での情報集約をスムーズにできる工夫をしていく。2学期から週1回の更新を目指したい。</p> <p>●安中安心メールの活用の仕方をもっと工夫する必要がある。保護者の登録率は現在70%。機会を捉えて登録を推奨し、さらに上げる努力を続けていく。</p> <p>●保護者や地域からのさらなる信頼が得られるように、可能な限り多様な形で学校からの情報発信を心がけていく。</p>